

霜害対策のチェックリスト

果樹（露地）

【事前対策】

内容	チェック欄	備考
霜害を受けやすい場所への植栽は避ける。		冷気の停滞しやすい凹地や谷沿いは避ける。
園地において風通しを遮る物件がある場合は開口部を設ける。		
防風垣の刈り込みを行う。		風通しを良くするために、防風垣の下枝を刈り込んでおく。
敷き草を除去する。		敷き草により地温の放熱がカットされ、裸地よりも冷却されて被害が助長される。
樹体表面を被覆する。		棚仕立てのナシ、ブドウ、キウイフルーツ等では樹体表面に寒冷紗やこもなどをかける。
防霜ファンを設置する。		本県では梅園での設置において効果を上げている。
スプリンクラーを設置する。		スプリンクラーを設置し散水を行う。散水による氷結により植物体を守る。但し途中で中止すると被害が発生するので朝日が出るまで散水を続ける。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

※ 日頃から気象情報を確認し、気象災害に備えるよう心掛けましょう（特に春季は天候の変動が激しいので注意が必要です。）。

霜害対策のチェックリスト

果樹（露地）

【事後対策】

内容	チェック欄	備考
(ナシ) 結実を確実にするとともに、結実量を確保するために、人工授粉回数を多くする。		開花が遅れている花にも丁寧に授粉する。
(ナシ) 霜害を受けた場合は摘果を遅らせ、健全果と被害果の判別ができるようになってから摘果する。		開花期から幼果期に霜害を受けた場合に実施する。
(ブドウ) 被害新梢跡から副芽が出てきたら、花穂を持った芽を伸長させる。		新梢が霜害により被害を受け枯死した場合に実施する。
(ブドウ) 新梢基部が生存し副梢の発生がみられたら副梢を1本に制限し伸長を促す。		新梢が生存している場合に実施する。
(ブドウ) 生存している新梢の生育が旺盛となり、被害部の副芽の生長を妨げるので摘心等を行い、生育を揃える。		部分的な被害の場合に実施する。
(カキ) 人工授粉を徹底する。		
(カキ) 摘蕾を軽くし、結実量を確保する。		
(キウイフルーツ) 人工授粉を徹底する。		結実確保に努める。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。

※ 日頃から気象情報を確認し、気象災害に備えるよう心掛けましょう（特に春季は天候の変動が激しいので注意が必要です。）。